記者発表資料

令 和 ８ 年 ７ 月 ２ ７ 日
国土交通省東北地方整備局

令和７年東北地方一級河川の水質調査結果
～東北では１河川が「水質が最も良好な河川」となりました～

令和７年(1～12 月)の東北地方一級河川の直轄管理区間における水質調査結果をとりまとめましたので、お知らせします。

○阿武隈川水系荒川は、１６年連続で「水質が最も良好な河川」となりました。

○東北管内１４５地点において、「生活環境の保全に関する環境基準」のうち、河川水質汚濁の代表的な指標である BOD または COD について、環境基準を約９２％満足しました。

○「人の健康の保護に関する環境基準」は、３地点で環境基準を超過(自然由来)しました。

○「微量化学物質(ダイオキシン類)調査」は、12 地点で環境基準を満足しました。

○「住民参加による水質調査」は、１０地点で、延べ１９１人(９団体)に参加していただき調査を実施しました。全ての地点で「きれいな水」と判定されました。

○水質事故は１７７件発生。原因は油流出が最も多く、約９割となりました。

○ Column 雄物川水系雄物川(秋田県)における水環境保全の取り組み

※本資料は東北地方整備局ホームページ内で掲載しています。

https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/plaza/jiko/suisitu_top/index_suisitu_top.html

なお、「令和７年全国一級河川の水質現況」の概況パンフレット及び詳細版については、国土交通本省ホームページをご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/r7_suisitu.html

＜発表記者会＞
青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

［本件に対するお問い合わせ先］
国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課
課 長 山影（やまかげ） 修司（しゅうじ）（内線 ３６５１）
課長補佐 石村（いしむら） 靖（やすし）（内線 ３６５６）
仙台市青葉区本町３－３－１ 仙台合同庁舎Ｂ棟
℡ 022-225-2171（代） FAX 022-215-3754

令和７年

東北地方

一級河川の水質現況

Recent conditions of water quality of class A rivers in Tohoku

2025



- 水質調査
- 微量化学物質（ダイオキシン類）調査
- 住民参加による水質調査
- 水質事故等の発生状況

Column

雄物川水系雄物川（秋田県）

～雄物川における水環境保全の取り組み～

Tohoku Regional Bureau

令和７年東北地方一級河川の水質現況

Contents

水質調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

微量化学物質（ダイオキシン類）調査 ・・・・・・・・・・ 7

住民参加による水質調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

水質事故等の発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３

Colunm

雄物川水系雄物川（秋田県）

雄物川における水環境保全の取り組み ・・・・・・・・・ １７

水質調査

東北地方整備局では、河川の適正な利用や河川環境の整備・保全を図るため、昭和 35 年から国土交通大臣管理区間の一級河川において、定期的かつ継続的に河川等の水質調査を実施し、水質状況の監視・把握を行っています。

水質の変遷をみると、高度経済成長期には都市化や工業化の進展に伴い、生活排水や工場排水による水質汚濁が進行するとともに、鉱山に由来する坑廃水による水環境への影響もみられました。この時期には、「汚い、臭い、遊べない」と言われる河川が多く存在していました。その後、排水規制の強化や下水道整備、河川浄化事業の推進に加え、坑廃水対策などの環境保全施策が進められたことにより、水質は着実に改善されてきました。

また、生活排水対策や流域でのクリーン活動など、流域住民による様々な取組も水質保全に貢献しています。今後も良好な水環境を維持・向上していくため、これらの取組を継続していくことが重要です。

水質が最も良好な河川

令和７年の水質調査結果において、阿武隈川水系荒川は、１６年連続で「平均的な水質（ＢＯＤ値）が最も良好な河川」となりました。

「水質が最も良好な河川」の定義
対象河川である 20 河川のうち、以下の両方を満たす河川
・対象河川の各調査地点の BOD 年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ※1
・対象河川の各調査地点の BOD75%値※2について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ

※1：環境省の定める BOD の報告下限値(0.5mg/ℓ)
※2：測定データを値が小さい方から並べ、0.75×データ数番目(整数ではない場合は切り上げ)の値(例えば、BOD を毎月 1 回測定していた場合、水質の良い方(値の小さい方)から数えて 0.75×12＝9 番目の値が 75%値となります。)

（対象河川）※湖沼及びダム貯水池は含まない
・一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川
・一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川

：報告下限値未満(0.5 未満)　：報告下限値(0.5)

（単位：mg/l）

水系名	河川名	調査地点	平均値	75%値	県名
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	1.8	2.0	福島県
		高田橋	2.3	2.6	
		須賀川	1.1	1.2	
		阿久津	1.1	1.4	
		伏黒	1.2	1.4	
		岩沼	1.0	1.1	宮城県
		丸森	1.5	1.6	
	荒川	荒川橋	0.5	< 0.5	福島県
		信夫橋	0.5	< 0.5	
名取川	名取川	閖上大橋	0.9	0.9	宮城県
		名取橋	1.2	1.3	
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	1.2	1.2	
		南郷	1.1	1.4	
		下中ノ目	1.0	1.2	
		三本木	1.0	1.1	
	吉田川	鹿島台	1.8	1.9	
		落合	1.7	1.8	
北上川	北上川	飯野川橋	1.6	2.1	岩手県
		飯野川	1.1	1.2	
		登米	0.8	1.0	
		大泉	0.9	1.1	
		金ヶ崎橋	1.0	1.1	
		藤橋	0.9	0.9	
		船田橋(2)	0.6	0.7	
		紫波橋	0.9	1.0	
		珊瑚橋	1.1	1.2	
		狐禅寺	1.2	1.3	
		朝日橋	1.0	1.3	
		昭和橋	1.0	1.1	
		四十四田ダム下流	0.8	0.8	
		南大橋	0.6	0.6	
		北上川橋	1.1	1.4	
		北上大橋	1.1	1.4	
	旧北上川	鹿又	1.1	1.1	宮城県
		門脇	0.8	0.9	
		和渕	1.0	1.2	
	江合川	轟	0.6	0.8	宮城県
		荒雄	0.9	1.0	
		短台	1.0	1.1	
		大深沢	0.6	< 0.5	
	和賀川	山室橋	0.7	0.6	岩手県
		切留	0.5	< 0.5	
		九年橋	0.8	0.9	
	猿ヶ石川	谷内	0.6	0.7	
		落合橋	0.7	0.8	
		安野橋	1.0	1.3	

水系名	河川名	調査地点	平均値	75%値	県名
北上川	胆沢川	望み大橋	0.5	< 0.5	岩手県
		再巡橋	0.8	0.9	
		下嵐江	0.5	0.5	
馬淵川	馬淵川	櫛引橋	0.8	0.9	青森県
		尻内橋	0.8	0.8	
		大橋	0.8	0.9	
岩木川	岩木川	鶴寿橋	1.5	1.8	
		鳥谷川河口	1.1	1.1	
		神田橋	1.1	1.3	
		津軽大橋	1.1	1.1	
		十三湖大橋	0.8	0.8	
		幡龍橋	1.2	1.5	
		山田川河口	1.9	2.5	
		安東橋	0.6	0.7	
		十三湖中央	1.9	2.7	
		乾橋	1.4	1.8	
		上岩木橋	0.7	0.8	
		三好橋	1.3	1.5	
米代川	米代川	鷹巣	0.8	0.9	秋田県
		能代	0.6	0.6	
		新真中橋（真中橋）	0.7	0.8	
		十二所	0.6	0.5	
		二ッ井	0.7	0.8	
雄物川	雄物川	雄物川橋	0.6	0.7	
		酒蒔橋	0.6	0.5	
		椿川	0.6	0.6	
		岳見橋	0.7	0.7	
		大曲橋	0.8	0.9	
	玉川	長野	0.5	< 0.5	
		玉川橋	0.6	0.5	
子吉川	子吉川	本荘大橋	0.7	0.9	
		宮内	0.6	0.7	
最上川	最上川	高屋	0.7	0.8	山形県
		長井橋（小出）	0.9	1.0	
		谷地橋（下野）	0.7	0.9	
		糠野目	1.1	1.7	
		碁点橋（稲下）	0.7	0.8	
		砂越	0.8	0.9	
		堀内	1.8	2.0	
		両羽橋	0.8	0.8	
	鮭川	戸沢橋	0.7	0.7	
		八千代橋	0.6	0.6	
赤川	赤川	蛾眉橋（横山）	0.7	0.9	
		東橋	0.5	< 0.5	
		新川橋（浜中）	0.7	0.8	

表中の <は、定量下限値であることを示す。

令和７年の水質調査

水質汚濁に関する環境基準項目

水質の環境基準には、「生活環境の保全に関する環境基準である生活環境項目」と「人の健康の保護に関する環境基準である健康項目」の２つがあり、環境基本法によって定められています。

生活環境の保全に関する環境基準

「生活環境の保全に関する環境基準」は、河川、湖沼、海域の各公共用水域について、水道、水産、工業用水、農業用水などの利用目的に応じて水域類型毎に基準値が定められており、各水域への類型設定は都道府県知事が行うことになっています。

本水質調査結果では、生活環境の保全に関する環境基準の項目について、河川は水質汚濁代表指標であるＢＯＤ※1の７５%値、湖沼（ダム湖を含む）はＣＯＤ※2の７５%値により整理しています。

なお、各河川の環境基準満足状況を次頁に示します。

※１：ＢＯＤ(生物化学的酸素要求量)：河川の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の汚れ（有機物）が微生物により分解されるときに消費される酸素量のことで、ＢＯＤの値が大きければ水が汚れていることを表す。

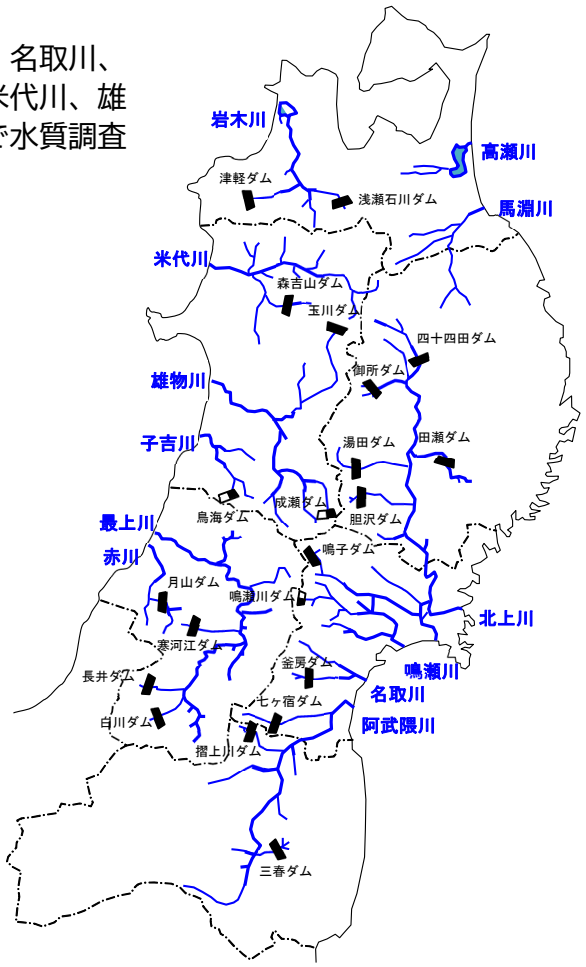
※２：ＣＯＤ(化学的酸素要求量)：湖沼や海域の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の有機物を酸化剤で酸化されるときに消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、ＣＯＤの値が大きければ水が汚れていることを表す。

水質調査地点

東北地方整備局管内の１２水系（阿武隈川、名取川、鳴瀬川、北上川、馬淵川、高瀬川、岩木川、米代川、雄物川、子吉川、最上川、赤川）の１４５地点で水質調査を実施しています。

水域別の水質調査地点数

水質調査地点	地点数
河川	１２９
湖沼	６
ダム湖	１０



令和７年の水質調査結果（全調査地点）

河川の水質現況(BOD)と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	環境基準（類型・基準値）		年間平均値 (mg/L)	75%値 (mg/L)	環境基準満足状況 ○：満足 ×：超過	環境基準満足状況 割合 (満足/全体)
阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	3.0	1.1	1.4	○	
阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	3.0	1.5	1.6	○	
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	2.0	1.0	1.1	○	
阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	3.0	2.3	2.6	○	
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	3.0	1.8	2.0	○	
阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	3.0	1.1	1.2	○	
阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	3.0	1.2	1.4	○	100% (13/13)
阿武隈川	広瀬川	舟場	B	3.0	1.1	1.3	○	
阿武隈川	荒川	荒川橋	A	2.0	0.5	<0.5	○	
阿武隈川	荒川	信夫橋	A	2.0	0.5	<0.5	○	
阿武隈川	釈迦堂川	下宿	B	3.0	1.1	1.2	○	
阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	2.0	0.6	0.6	○	
阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	2.0	0.9	1.2	○	
名取川	広瀬川	三橋	B	3.0	0.9	1.0	○	
名取川	前川	北向橋	AA	1.0	0.6	0.5	○	
名取川	太郎川	いちくぼ橋	AA	1.0	0.6	0.5	○	
名取川	北川	北川橋	AA	1.0	0.6	0.6	○	100% (7/7)
名取川	名取川	名取橋	B	3.0	1.2	1.3	○	
名取川	名取川	関上大橋	B	3.0	0.9	0.9	○	
名取川	笊川	名取川合流前	C	5.0	1.2	1.3	○	
鳴瀬川	吉田川	鹿島台	B	3.0	1.8	1.9	○	
鳴瀬川	吉田川	落合	B	3.0	1.7	1.8	○	
鳴瀬川	善川	善川橋	B	3.0	1.5	1.7	○	100% (7/7)
鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	2.0	1.0	1.2	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	三本木	A	2.0	1.0	1.1	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	3.0	1.2	1.2	○	
鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	2.0	1.1	1.4	○	
北上川	猿ヶ石川	安野橋	A	2.0	1.0	1.3	○	
北上川	猿ヶ石川	落合橋	A	2.0	0.7	0.8	○	
北上川	猿ヶ石川	谷内	A	2.0	0.6	0.7	○	
北上川	旧北上川	鹿又	B	3.0	1.1	1.1	○	
北上川	旧北上川	門脇	B	3.0	0.8	0.9	○	
北上川	旧北上川	和渕	A	2.0	1.0	1.2	○	
北上川	江合川	荒雄	B	3.0	0.9	1.0	○	
北上川	江合川	轟	AA	1.0	0.6	0.8	○	
北上川	江合川	大深沢	AA	1.0	0.6	<0.5	○	
北上川	江合川	短台	B	3.0	1.0	1.1	○	
北上川	砂鉄川	門崎橋	A	2.0	0.7	0.8	○	
北上川	零石川	東北本線鉄橋	A	2.0	0.7	0.8	○	
北上川	零石川	御所ダム下流	A	2.0	0.6	0.7	○	
北上川	零石川	春木場	A	2.0	0.5	0.5	○	
北上川	葛根田川	葛根田	A	2.0	0.5	<0.5	○	
北上川	南川	南川	A	2.0	0.5	0.5	○	
北上川	小友川	小友橋	A	2.0	0.6	0.6	○	
北上川	前川（北上川水系）	前川	AA	1.0	0.5	<0.5	○	
北上川	胆沢川	下鳳江	AA	1.0	0.5	0.5	○	
北上川	胆沢川	再巡橋	A	2.0	0.8	0.9	○	
北上川	胆沢川	望み大橋	A	2.0	0.5	<0.5	○	
北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	2.0	0.6	0.7	○	94% (43/44)
北上川	中津川	御厩橋	A	2.0	0.6	0.6	○	
北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	5.0	1.4	1.9	○	
北上川	磐井川	上の橋	A	2.0	0.6	0.8	○	
北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	2.0	1.0	1.1	○	
北上川	北上川	狐禅寺	A	2.0	1.2	1.3	○	
北上川	北上川	珊瑚橋	A	2.0	1.1	1.2	○	
北上川	北上川	四十四田ダム下流	A	2.0	0.8	0.8	○	
北上川	北上川	紫波橋	A	2.0	0.9	1.0	○	
北上川	北上川	昭和橋	A	2.0	1.0	1.1	○	
北上川	北上川	船田橋(2)	A	2.0	0.6	0.7	○	
北上川	北上川	大泉	A	2.0	0.9	1.1	○	
北上川	北上川	朝日橋	A	2.0	1.0	1.3	○	
北上川	北上川	登米	A	2.0	0.8	1.0	○	
北上川	北上川	藤橋	A	2.0	0.9	0.9	○	
北上川	北上川	南大橋	A	2.0	0.6	0.6	○	
北上川	北上川	飯野川	A	2.0	1.1	1.2	○	
北上川	北上川	飯野川橋	A	2.0	1.6	2.1	×	
北上川	北上川	北上川橋	A	2.0	1.1	1.4	○	
北上川	北上川	北上大橋	A	2.0	1.1	1.4	○	
北上川	和賀川	九年橋	A	2.0	0.8	0.9	○	
北上川	和賀川	山室橋	AA	1.0	0.7	0.6	○	
北上川	和賀川	切留	AA	1.0	0.5	<0.5	○	
馬淵川	馬淵川	櫛引橋	A	2.0	0.8	0.9	○	100% (3/3)
馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	3.0	0.8	0.8	○	
馬淵川	馬淵川	大橋	B	3.0	0.8	0.9	○	
岩木川	岩木川	安東橋	A	2.0	0.6	0.7	○	
岩木川	岩木川	乾橋	A	2.0	1.4	1.8	○	
岩木川	岩木川	三好橋	A	2.0	1.3	1.5	○	
岩木川	岩木川	山田川河口	B	3.0	1.9	2.5	○	
岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	3.0	0.8	0.8	○	
岩木川	岩木川	十三湖中央	B	3.0	1.9	2.7	○	
岩木川	岩木川	上岩木橋	A	2.0	0.7	0.8	○	100% (15/15)
岩木川	岩木川	神田橋	A	2.0	1.1	1.3	○	
岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	3.0	1.1	1.1	○	
岩木川	岩木川	津軽大橋	B	3.0	1.1	1.1	○	
岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	2.0	1.5	1.8	○	
岩木川	岩木川	幡龍橋	A	2.0	1.2	1.5	○	
岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	2.0	0.6	0.7	○	
岩木川	平川	平川橋	A	2.0	0.7	0.7	○	
岩木川	平川	豊平橋	A	2.0	0.7	0.7	○	
米代川	米代川	十二所	B	3.0	0.6	0.5	○	
米代川	米代川	新真中橋（真中橋）	B	3.0	0.7	0.8	○	100% (5/5)
米代川	米代川	鷹巣	B	3.0	0.8	0.9	○	
米代川	米代川	二ッ井	B	3.0	0.7	0.8	○	
米代川	米代川	能代	B	3.0	0.6	0.6	○	
雄物川	横手川	藤木上橋	B	3.0	1.1	1.2	○	
雄物川	皆瀬川	岩崎橋	A	2.0	0.6	0.6	○	
雄物川	玉川	玉川ダム	AA	1.0	0.5	<0.5	○	
雄物川	玉川	玉川橋	A	2.0	0.6	0.5	○	
雄物川	玉川	長野	A	2.0	0.5	<0.5	○	100% (11/11)
雄物川	成瀬川	真人橋	AA	1.0	0.5	<0.5	○	
雄物川	雄物川	岳見橋	A	2.0	0.7	0.7	○	
雄物川	雄物川	酒蒔橋	A	2.0	0.6	0.5	○	
雄物川	雄物川	大曲橋	A	2.0	0.8	0.9	○	
雄物川	雄物川	椿川	A	2.0	0.6	0.6	○	
雄物川	雄物川	雄物川橋	A	2.0	0.6	0.7	○	
子吉川	子吉川	宮内	A	2.0	0.6	0.7	○	100% (2/2)
子吉川	子吉川	本荘大橋	B	3.0	0.7	0.9	○	
最上川	寒河江川	中村	AA	1.0	0.6	0.7	○	
最上川	最上川	碁点橋	A	2.0	0.7	0.8	○	
最上川	最上川	谷地橋	A	2.0	0.7	0.9	○	
最上川	最上川	糠野目	A	2.0	1.1	1.7	○	
最上川	最上川	高屋	A	2.0	0.7	0.8	○	
最上川	最上川	砂越	A	2.0	0.8	0.9	○	
最上川	最上川	長井橋	A	2.0	0.9	1.0	○	
最上川	最上川	堀内	A	2.0	1.8	2.0	○	
最上川	最上川	両羽橋	A	2.0	0.8	0.8	○	100% (18/18)
最上川	鮭川	戸沢橋	A	2.0	0.7	0.7	○	
最上川	鮭川	八千代橋	AA	1.0	0.6	0.6	○	
最上川	須川	落合橋	B	3.0	1.2	1.3	○	
最上川	相沢川	宝永橋	A	2.0	0.7	0.7	○	
最上川	村山野川	舟戸橋	A	2.0	0.7	0.7	○	
最上川	丹生川	丹生川大橋	A	2.0	0.8	1.0	○	
最上川	置賜白川	白川ダム	A	2.0	0.7	0.9	○	
最上川	置賜野川	長井ダム	A	2.0	0.7	0.8	○	
最上川	立谷沢川	東雲橋	A	2.0	0.5	<0.5	○	
赤川	赤川	蛾眉橋（横山）	A	2.0	0.7	0.9	○	100% (4/4)
赤川	赤川	新川橋（浜中）	A	2.0	0.7	0.8	○	
赤川	赤川	東橋	A	2.0	0.5	<0.5	○	
赤川	梵字川	月山ダム	A	2.0	0.8	1.0	○	

●河川における類型別環境基準
- AA 類型： 1ｍｇ／Ｌ以下
- A 類型 ： 2ｍｇ／Ｌ以下
- B 類型 ： 3ｍｇ／Ｌ以下
- C 類型 ： 5ｍｇ／Ｌ以下
- D 類型 ： 8ｍｇ／Ｌ以下
- E 類型 ：10ｍｇ／Ｌ以下

湖沼・ダムの水質現況(COD)と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	環境基準（類型・基準値）		年間平均値 (mg/L)	75%値 (mg/L)	環境基準満足状況 ○：満足 ×：超過	環境基準満足状況 割合 (満足/全体)
阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	3.0	2.5	2.7	○	100% (1/1)
名取川	碁石川	釜房ダム	AA	1.0	2.8	2.9	×	100% (0/1)
北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	3.0	2.9	3.8	×	60% (3/5)
北上川	江合川	鳴子ダム	AA	1.0	2.3	3.2	×	
北上川	零石川	御所ダム貯水池	A	3.0	1.8	2.0	○	
北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	3.0	2.2	2.2	○	
北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	3.0	1.9	2.1	○	
高瀬川	高瀬川	河口	A	3.0	4.5	5.6	×	0% (0/6)
高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	3.0	4.5	5.0	×	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.A)	A	3.0	5.1	6.2	×	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.C)	A	3.0	18.0	21.0	×	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.G)	A	3.0	29.0	31.0	×	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.H)	A	3.0	24.0	25.0	×	
岩木川	岩木川	津軽ダム	A	3.0	2.0	2.5	○	50% (1/2)
岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	3.0	2.8	3.3	×	
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	3.0	1.8	2.1	○	100% (1/1)

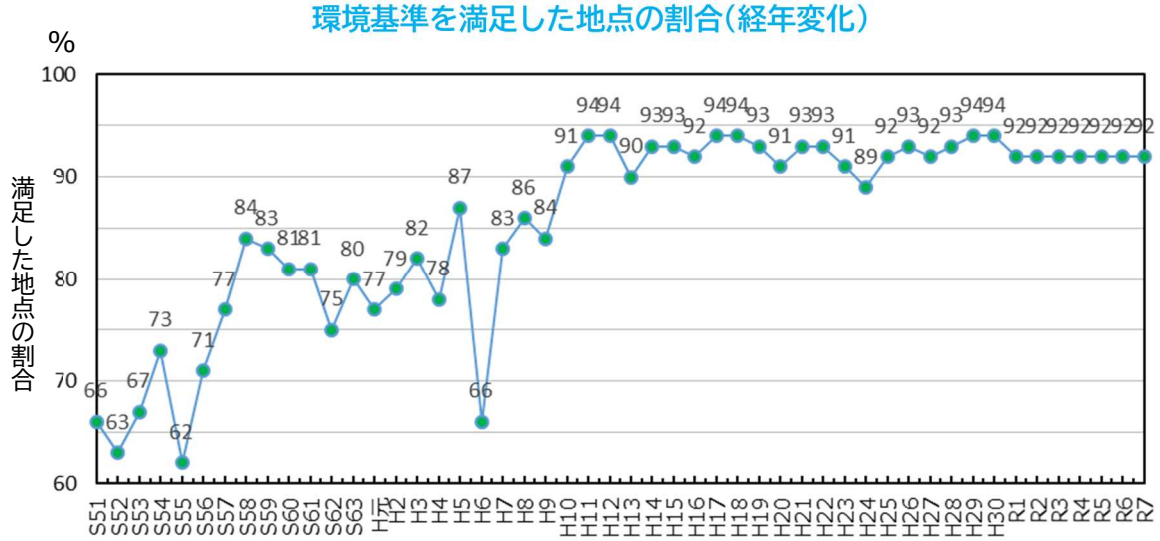
●湖沼における類型別環境基準
- AA 類型： 1ｍｇ／Ｌ以下
- A 類型 ： 3ｍｇ／Ｌ以下
- B 類型：5ｍｇ／Ｌ以下
- C 類型：8ｍｇ／Ｌ以下

生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

令和７年において、東北地方整備局管内（直轄管理区間）１２水系のうち、類型指定※1されている１４５地点（河川１２９地点、湖沼６地点、ダム湖１０地点）で調査を実施しています。なお、ＢＯＤまたはＣＯＤを満足した地点数は約９２％（１３４地点／１４５地点）であり、高い割合を維持しています。

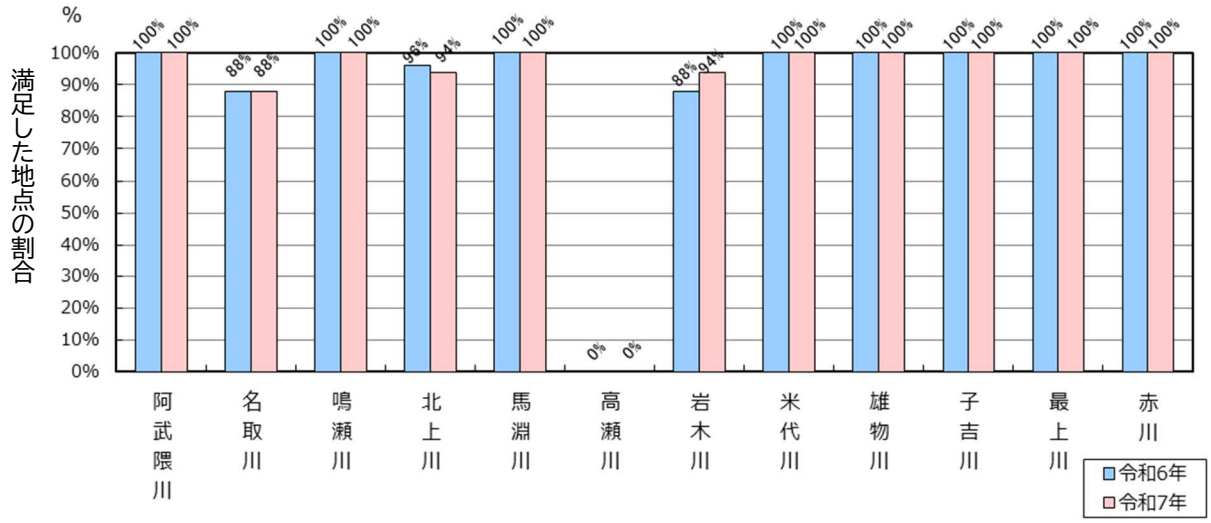
※1　「類型指定」とは、河川の特性や水利用状況などにより生活環境項目の環境基準を定めた河川の区間、又はダム・湖沼で、国もしくは県が目標とするＢＯＤ、ＣＯＤの基準値をあてはめたもの。

環境基準を満足した地点の割合（経年変化）



また、水系別では１２水系中８水系において、全ての調査地点で環境基準を満足しています。

環境基準を満足した地点の割合（水系別）



人の健康の保護に関する環境基準

「人の健康の保護に関する環境基準」は、環境基本法に基づき公共用水域に一律に適用されるものとして、２７項目を定められています。

令和７年において、東北地方整備局管内（直轄管理区間）１２水系１１２地点で調査を実施しています。年平均値で環境基準値を超過した地点は３点（延べ４地点）で確認されています。そのほか、調査地点では環境基準を満足しています。

環境基準を超過した地点の原因は、自然由来と推定されています。

環境基準超過地点

超過項目	水系河川名	地点名	最大値（mg/L）	年間平均値（mg/L）	環境基準値（年間平均値）（mg/L）	原　因
砒素	北上川水系小鬼ヶ瀬川	天子森	0.021	0.012	0.010	自然由来
砒素	北上川水系江合川	大深沢	0.030	0.021	0.010	自然由来
ほう素	北上川水系江合川	大深沢	1.250	1.040	1.000	自然由来
ふっ素	雄物川水系玉川	玉川ダム	2.100	1.360	0.800	自然由来

人の健康の保護に関する環境基準（２７項目）

カドミウム	１，１，２－トリクロロエタン
全シアン	トリクロロエチレン
鉛	テトラクロロエチレン
六価クロム	１，３－ジクロロプロペン
砒素	チウラム
総水銀	シマジン
アルキル水銀	チオベンカルブ
ＰＣＢ	ベンゼン
ジクロロメタン	セレン
四塩化炭素	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
１，２－ジクロロエタン	ふっ素
１，１－ジクロロエチレン	ほう素
シス－１，２－ジクロロエチレン	１，４－ジオキサン
１，１，１－トリクロロエタン	

微量化学物質（ダイオキシン類）調査

　微量化学物質（ダイオキシン類）調査は、ダイオキシン類による環境汚染の実態を把握し、人の健康及び生活環境の保全を図ることを目的として、大気、水質、底質、土壌等を対象に実施する調査です。
　東北地方整備局では、平成１１年から管内１２水系において継続的に水質と底質の調査を実施しています。

微量化学物質（ダイオキシン類※1）調査

令和７年の調査結果

令和７年において、東北地方整備局管内１２水系１２地点で調査しています。全調査地点で水質・底質のいずれも環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足しています。

※１… ダイオキシン類対策特別措置法に定義される『ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)』『ポリ塩化ジベンゾ－パラ－ジオキシン(PCDD)』『コプラナーポリ塩化ビフェニル(Co-PCB)』の３種の化合物群。非意図的に生成され、毒性が非常に強く、残留性が高い物質。

微量化学物質(ダイオキシン類)調査結果

水系	河川名	調査地点	区分	水質 (pg-TEQ/ℓ)		底質 (pg-TEQ/g)	
				測定値	環境基準	測定値	環境基準
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	基準	0.089	1	1.30	150
名取川	名取川	閖上大橋	基準	0.084	1	1.90	150
鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬堰（小野）	基準	0.190	1	0.31	150
北上川	北上川	登米	基準	0.071	1	0.58	150
馬淵川	馬淵川	尻内橋	基準	0.072	1	0.24	150
高瀬川	小川原湖	小川原湖 No.H	基準	0.067	1	3.30	150
岩木川	岩木川	乾橋	基準	0.079	1	0.23	150
米代川	米代川	二ツ井	基準	0.069	1	0.31	150
雄物川	雄物川	新屋	基準	0.079	1	5.20	150
子吉川	子吉川	二十六木橋	基準	0.072	1	2.10	150
最上川	最上川	碁点橋	基準	0.077	1	0.55	150
赤川	赤川	浜中	基準	0.076	1	0.22	150

住民参加による水質調査

住民参加による水質調査は、地域住民が自ら水環境の現状を把握し、水質保全への理解と関心を高めるとともに、行政との協働による水環境保全施策の推進を目的として実施するものです。

東北地方整備局は、地域住民の小学生・中学生等との協働により、実施できる測定項目（パックテスト、水生生物の生息、水環境の状態(きれいさ、汚れ)）において評価しており、よりわかりやすい調査手法を採用し、川の改善を目指すことをねらいとしています。

住民参加による水質調査

水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

水生生物における水質汚濁は、水生生物の種類や数を調べることで、大まかな河川の水質状況を評価することができます。

人間活動による河川への汚濁の影響を受け、水生生物がどのように変化するかという視点から行われた研究を基礎としています。

また、水質階級を判断するための指標生物が設定されており、その生息状況により水質を判断します。

住民参加状況

令和７年は、多数の地域住民（小・中学校等）に参加いただき、河川愛護の必要性を認識していただく良い機会にもなっています。

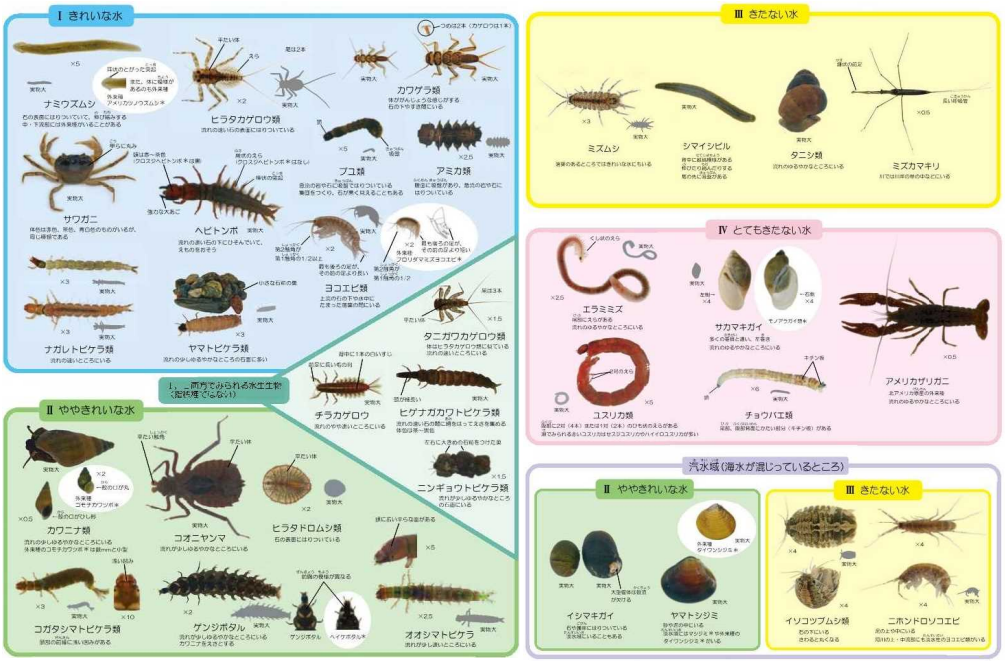
住民等参加による調査は６水系１０地点（計１１回）で、延べ１９１人、９団体の参加を得て実施しました。

指標生物

水生生物の「指標生物」とは、川などの水環境の状態（きれいさ・汚れ・汚染の種類など）を判断するための手がかりになる生物のことです。川の生物は、きれいな水にしか生息できないものや、汚い水に棲むものに分かれています。このことから、水質階級および指標生物を下表に示します。

水質階級と指標生物

きれいな水（Ⅰ）の指標生物
ナミウズムシ、ザワガニ、ヒラタカゲロウ類、ヘビトンボ、カワゲラ類　など
ややきれいな水（Ⅱ）の指標生物
カワニナ類、コガタシマトビケラ類、コオニヤンマ、ゲンジホタル　など
きたない水（Ⅲ）の指標生物
ミズムシ、シマイシビル、タニシ類、ミズカマキリ　など
とてもきたない水（Ⅳ）の指標生物
エラミミズ、ユスリカ類、サカマキガイ、チョウバエ類、アメリカザリガニ



水質判定結果（全体）

令和７年は、６水系１０地点で調査を実施し、判定可能であった全ての地点において、「きれいな水」と判定されました。

水質判定結果

水系名	河　川　名	地点名	判　定
阿武隈川	阿武隈川	丸森橋	Ⅰ
阿武隈川	白石川	白幡橋	Ⅰ
名取川	名取川	名取橋	Ⅰ
名取川	広瀬川	広瀬橋	Ⅰ
鳴瀬川	鳴瀬川	下伊場野水辺の楽校	判定不能
北上川	大関川（県管理区間）	三滝堂ふれあい公園	Ⅰ
岩木川	岩木川	弘前水辺プラザ	Ⅰ
最上川	丹生川	すいか橋	Ⅰ
最上川	丹生川	すいか橋	Ⅰ
最上川	泉田川	鮭川と泉田川の合流点	Ⅰ
最上川	金山川	安久土橋	Ⅰ

Ⅰ：きれいな水、Ⅱ：ややきれいな水、Ⅲきたない水、Ⅳとてもきたない水

水質判定結果（指標生物の出現状況）

水系名	河川名	地点名	調査月日	指標生物の出現状況（見つかった指標生物の欄に○印、うち数の多い2種類に●印をつける。）																									判定
				Ⅰ										Ⅱ							Ⅲ						Ⅳ					点数の最も高い階級
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
				カワゲラ類	ナガレトビケラ類	ヤマトビケラ類	ヒラタカゲロウ類	ヘビトンボ	ブユ類	アミカ類	ナミウズムシ	サワガニ	ヨコエビ類	コガタシマトビケラ類	オオシマトビケラ	ヒラタドロムシ類	ゲンジボタル	コオニヤンマ	カワニナ類	ヤマトシジミ	イシマキガイ	ミズムシ	ミズカマキリ	シマイシビル	タニシ類	イソコツブムシ類	ニホンドロソコエビ	ユスリカ類	チョウバエ類	エラミミズ	サカマキガイ	アメリカザリガニ	
阿武隈川	阿武隈川	丸森橋	R7.07.07	○	●			○								●								○									Ⅰ
阿武隈川	白石川	白幡橋	R7.07.07	●	●			○								○				○													Ⅰ
名取川	名取川	名取橋	R7.07.24	●	●							○				○																	Ⅰ
名取川	広瀬川	広瀬橋	R7.08.01	○	○		●				○		○			●		○						○	○								Ⅰ
鳴瀬川	鳴瀬川	下伊場野水辺の楽校	R7.07.15																														判定不能
北上川	大関川	三滝堂ふれあい公園	R7.08.25				●	●				●																					Ⅰ
岩木川	岩木川	弘前水辺プラザ	R7.07.11	●	●		●	○					○	○	○		○	○															Ⅰ
最上川	丹生川	すいか橋	R7.06.18	○	●		●	○	○		○				○		○																Ⅰ
最上川	丹生川	すいか橋	R7.07.03	●			●		○		○																						Ⅰ
最上川	泉田川	鮭川と泉田川の合流点	R7.07.16		●		●	○	○		○																			○			Ⅰ
最上川	金山川	安久土橋	R7.07.01	○	●		●	○																									Ⅰ

※集計・判定方法

・見つかった指標生物の欄に○印を付ける。

・数が多かった上位2種には●印を付ける。（2 番目、3 番目が同程度の場合は、最大3種まで）

・○(1 点)および●(2 点)の合計を評価し、最も大きい数がその場所の水質階級と判定する。

水生生物による水質の簡易調査状況

7/11 岩木川水系岩木川 弘前水辺プラザ



7/1 最上川水系金山川 安久土橋



7/16 最上川水系泉田川
鮭川と泉田川の合流点



6/18 最上川水系丹生川 すいか橋



7/3 最上川水系丹生川 すいか橋





水質階級	記号
Ⅰ．きれいな水	●
Ⅱ．ややきれいな水	●
Ⅲ．きたない水	●
Ⅳ．とてもきたない水	●
判定不能	●

8/25 北上川水系大関川
三滝堂ふれあい公園



7/15 鳴瀬川水系鳴瀬川
下伊場野水辺の楽校



7/24 名取川水系名取川 名取橋



8/1 名取川水系広瀬川 広瀬橋



7/7 阿武隈川水系白石川 白幡橋



7/7 阿武隈川水系阿武隈川 丸森橋



参加者の感想
・きれいな川ときたない川では生物が違うことに驚いた。
・きれいな水に生息するカゲロウ類などが多く見られた。
・パックテストで調べるのが楽しかった。
・生物をさがしてつかまえるのが楽しかった。

水質事故等の発生状況

　水質事故とは、河川・湖沼・地下水・海域などの水環境に、油や化学物質、汚水などが流出・混入し、水質の汚濁や異常を引き起こす事故のことを指します。
　水質事故に的確に対応するためには、早期の事故発見、関係機関による相互の情報交換や迅速な連絡、適切な対策の選定などが要求され、関係機関（国、県、市町村、消防、警察、水道部局等）による各水系水質汚濁対策連絡協議会を設置し、連携を図りながら水質事故の対応にあたっています。
　また、灯油等を扱う機会が多くなる冬季を前に、水質事故発生時の迅速で適確な事故対応技術を習得することを目的に毎年講習会を行っています。

水質事故等の発生状況

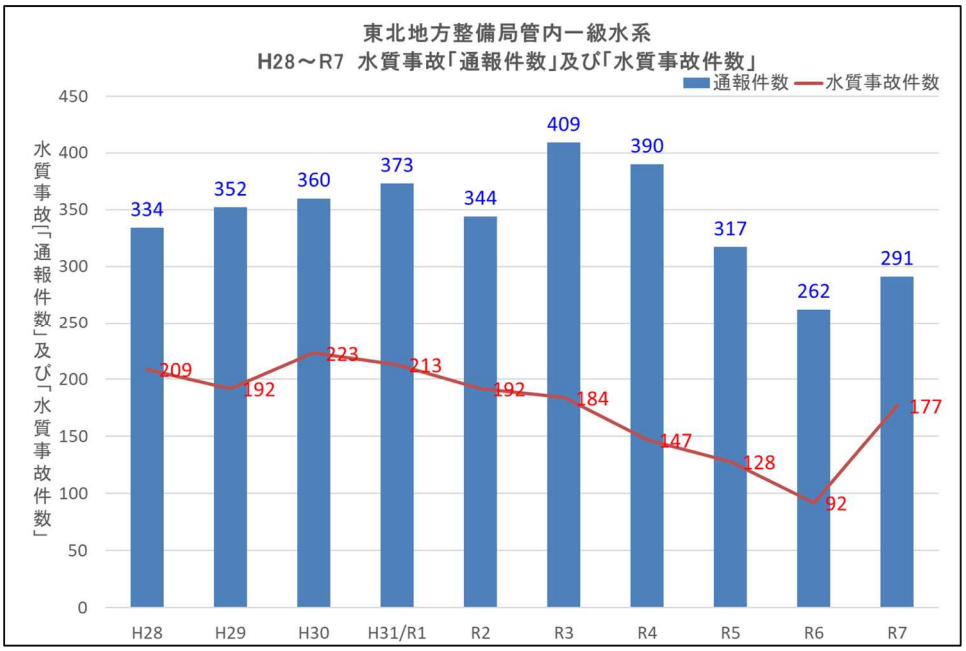
水質事故等の発生状況

令和７年の東北地方整備局管内における水質事故の「通報件数」は２９１件であり、このうち、公共用水域に流出した「水質事故」は、１７７件となっています。

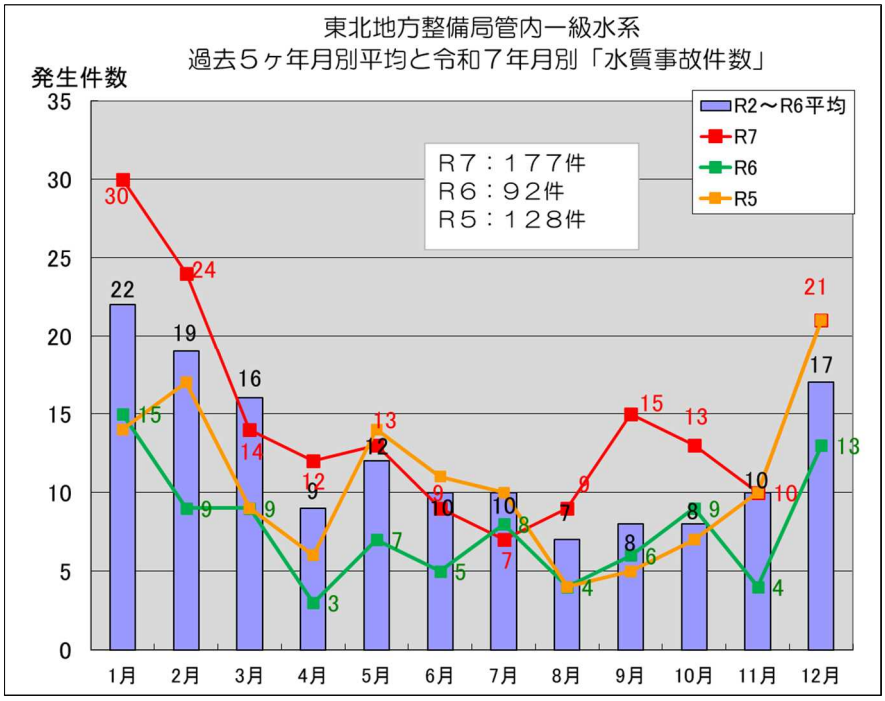
年間の水質事故件数は平成３０年以降、６年連続で減少していましたが、令和７年は前年と比べて８５件増加しました。

また、水質事故は、灯油の使用機会が増える冬期間に多く発生する傾向が見られます。

東北管内 水質事故発生状況



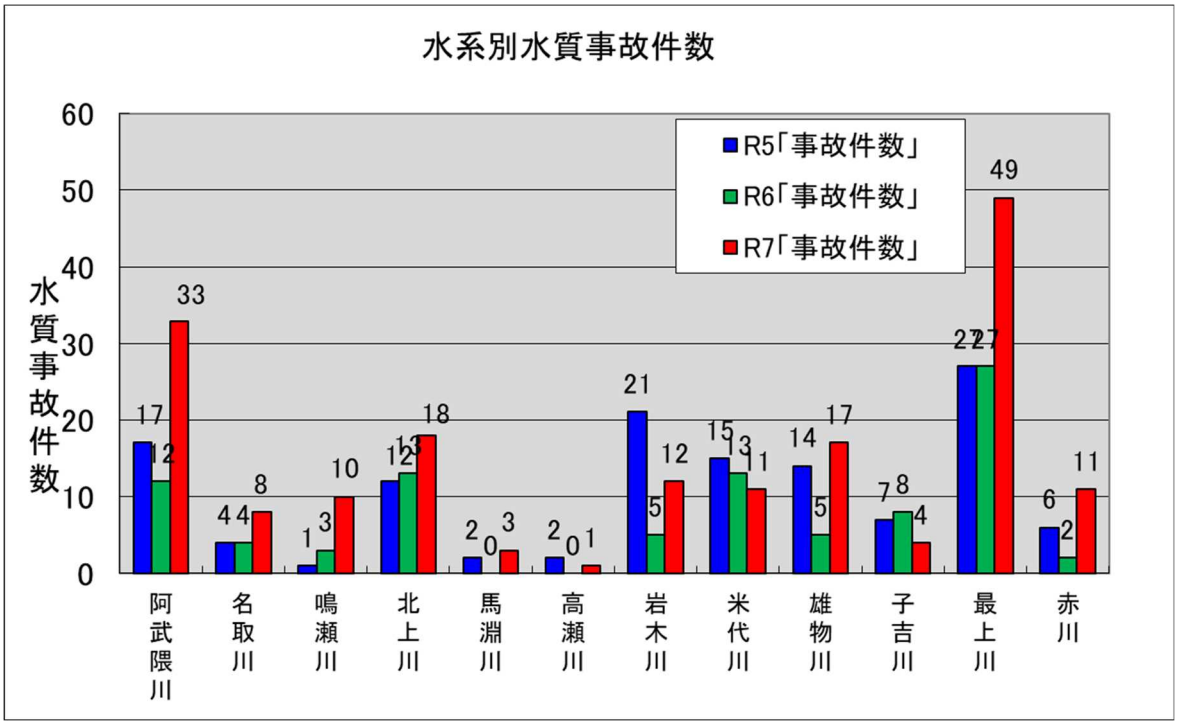
過去５ヶ年月別平均と令和７年月別「水質事故件数」



令和７年の水系別は、最上川、阿武隈川、北上川、雄物川の順に水質事故が多い結果となっています。

また、令和７年１月から１２月までに、一時的に上水道の取水停止を伴う事象が２件発生しましたが、住民生活への直接的な影響は確認されませんでした。

その他の水質事故については、水質汚濁対策連絡協議会の関係機関等による被害拡大防止の対応により、重大な事故には至りませんでした。



上水道の取水停止を伴った水質事故

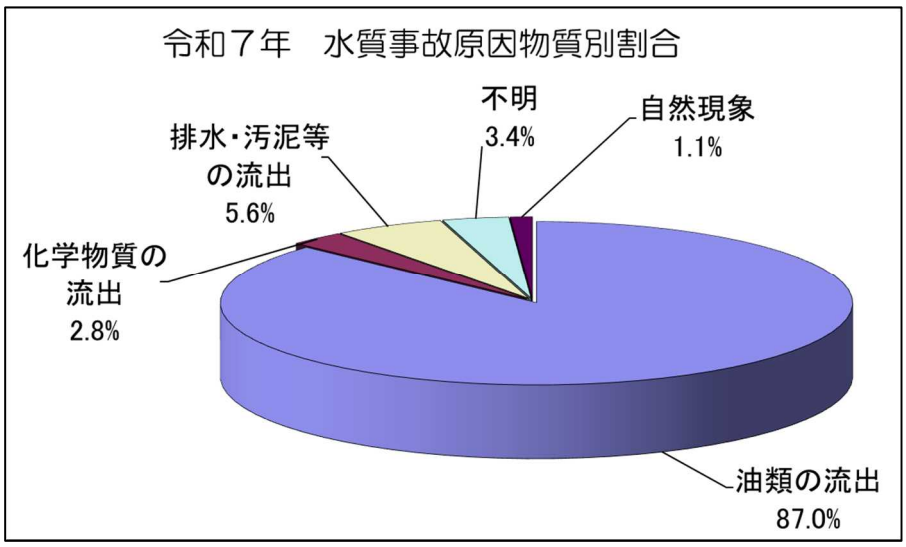
水系名	河川名	流出物質	発生年月日	発生地点	取水停止水道	停止期間
鳴瀬川	筒砂子川	油類	R7.4.7	宮城県加美町	大崎広域水道事務所	■大崎広域水道 4/7 16:20～20:15
阿武隈川	松川	フェノール	R7.7.29	宮城県蔵王町	岩沼市上水道 大河原町上水道	■岩沼市上水道 7/30 10:30～20:00 ■大河原町上水道 7/30 15:00 ～8/4 15:00

水質事故の発生原因

水質事故原因物質別割合

水質事故の種類は、重油及び軽油等の油類が最も多く、８７．０%を占めています。近年は、８０%以上で推移しています。

水質事故原因物質別割合

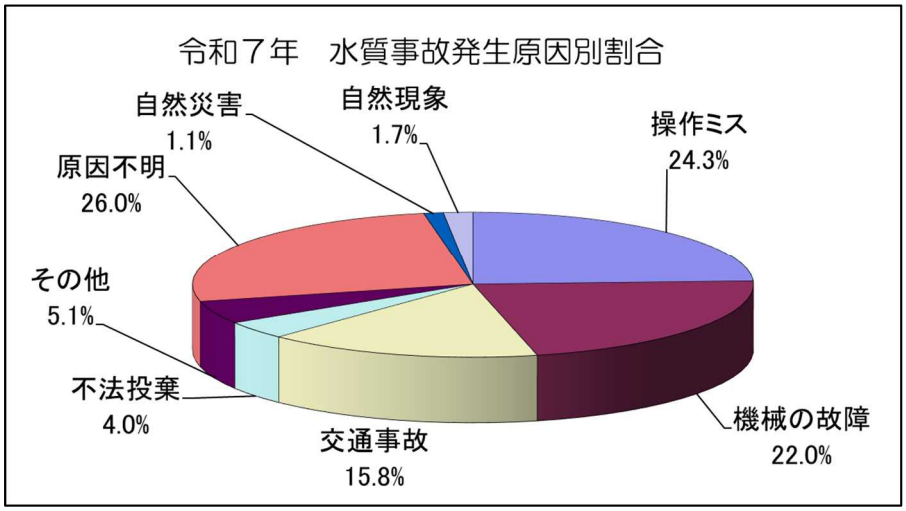


水質事故発生原因別割合

水質事故の発生原因は、給油中にその場を離れたことなどによる「操作ミス」が２４．３%を占めています。

また、ホームタンクの配管の腐食や緩みなどによる「機械の故障」や「交通事故」による人為的な不注意による発生が、約４割となっています。

水質事故発生原因別割合



Column

雄物川水系雄物川（秋田県）

－雄物川における水環境保全の取り組み－

Column

「雄物川における水環境保全の取り組み」

雄物川の管理を担当している秋田河川国道事務所・湯沢河川国道事務所から、水環境保全の取り組みについて紹介します

１．雄物川の概要

雄物川は、その源を秋田・山形県境の大仙山（標高 920m）に発し、奥羽山脈から発する皆瀬川、横手川等の支川を合わせながら米どころの横手盆地・仙北平野を北上し、玉川を合流した後、進路を北西に変え、秋田市新屋で旧雄物川を分派し、本川は放水路を経て日本海に注ぎ、旧雄物川は秋田港を経て日本海に注いでいます。



その流域は、秋田県の県都秋田市や大仙市等 5 市 2 町 1 村からなり、沿川には東北中央自動車道、東北横断自動車道、国道 7 号及び 13 号、秋田新幹線（JR 奥羽本線・田沢湖線）、JR 奥羽本線、JR 羽越線等が雄物川と並行及び交差しながら整備されており、交通の要衝となっています。

雄物川流域は、十和田八幡平国立公園や栗駒国定公園、田沢湖、小安峡等の豊かな自然環境、景勝地や、大仙市の全国花火競技大会、角館武家屋敷、乳頭温泉郷等豊富な観光資源にも恵まれており、下流部の秋田市は、藩政時代からの城下町として栄え、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしています。

また、川と深い関わりを持つ伝統行事や貴重な史跡が各地にあり、雄物川の恵みが育んできた豊かな環境を携えています。



◀田沢湖とたつこ姫像



◀川を渡るぼんでん奉納



◀全国花火競技大会（大曲の花火）

２．玉川酸性水中和処理施設

支川玉川の上流部にある玉川温泉の大噴（おおぶけ）から流れ出す強酸性泉は、その成分から玉川ブルーとして玉川ダムや田沢湖、抱返り渓谷等で吸い込まれるような鮮やかな青色の景観を醸し出しています。



◀玉川温泉の源泉（大噴）

しかし、その強酸性泉は玉川の水を酸性に変え、中和処理施設の運転開始前には、玉川ダム地点でのｐＨが土木構造物に影響を及ぼさない限界とされるｐＨ4.0 を下回り、農業用水の取水地点である神代ダムの下流地点でも農業用水基準のｐＨ6.0～7.5 が確保されない状況で、河川工作物や農業生産は大きな影響を受けている状況でした。

このため、古来より様々な酸性水対策が試みられ、今から約 180 年前に秋田藩主・佐竹公の命により、角館の藩士・田口幸右エ門父子とその家来・平鹿藤五郎による毒水排除工事が最初に行われた対策と言われています。

明治以降も断続的に秋田県等により対策が試みられましたが、昭和９年に地下溶透法による対策が行われ、ある程度効果があったことから、この効果と併せ、昭和１４年には、電源開発と農業の振興を目

的とした「玉川河水統制計画」が策定され、昭和 15 年より玉川の水を田沢湖へ導入し希釈する方法が実施されました。この方法による酸性水対策は、秋田県と東北電力により継続して実施され、当初は一定の効果をあげたものの、田沢湖の酸性化等により玉川の水質も年々低下してきました。

昭和４７年からは、秋田県において東北電力の協力を得て野積みの石灰石に酸性水を散水し、中和させる簡易石灰石中和法により対策を行っていましたが、これでも十分な対策とは言い難く、地元および秋田県より国に抜本的な対策の強い要望が出され、検討委員会により、当時ダムを建設中であった旧建設省が、酸性水がコンクリートダムに与える影響が大きいことから、玉川ダム事業の一環として、玉川酸性水対策に取り組むことになりました。



◀玉川酸性水中和処理施設

酸性水によって田沢湖の水質が悪化し、クニマスを含むおおくの魚類が死滅する等、自然環境や生活環境に大きな影響を与えましたが、玉川酸性水中和処理施設により玉川の水質改善が図られ、日本有数の米どころである仙北平野のかんがい用水として安定的に利用可能となったほか、田沢湖では一部の魚類の姿も見られるようになっています。

３．水質事故の発生状況

雄物川水系における公共用水域の水質事故は、近年では令和５年が 40 件、令和６年が 11 件、令和７年が 17 件となっています。

令和７年の水質事故の発生状況を見ると、原因物質別で 15 件が油類と約 9 割を占め、その原因は操作ミス、機械の故障、交通事故や原因不明によるものとなっています。車両・船舶や民家・家屋からの発生が半数を占め、一般家庭や個人の不注意によるものを改善できれば事故件数を減らすことができるものです。

４．水質汚濁対策連絡協議会の活動

河川水質汚濁対策及び河川環境の保全に関する各関係機関相互の連絡調整を図ることを目的として、国土交通省、県、警察、流域市町村、消防で構成する「雄物川水系水質汚濁対策連絡協議会」を昭和 48 年に設置し、水環境保全のため次の取り組みを行っています。

①雄物川流域一斉清掃

コロナ禍や荒天を除き毎年開催されている「雄物川流域一斉清掃」は、市街地や耕作地から雄物川や各河川に流出する河川ゴミ対策について平成 20 年に意見交換を行い実施することとなり、平成 21 年より流域内の各市町村で開催され、地域住民、沿川の企業等の努力により継続され令和 7 年で 17 年目となります。





◀流域一斉清掃の様子



◀カヌーによる清掃活動

②水質事故対応訓練

本格的な冬を迎える前に、油類等が河川や水路に流出した際の“迅速かつ的確な対応による被害の拡大防止”を目的に、消防署や各自治体の水質事故対応担当者が参加する訓練を毎年開催しています。参加者には、オイルフェンス設置訓練や側溝での油流出防止訓練等、水質異常時の現地対応訓練等を体験することで、水質事故への迅速な初動対応とその意義について理解を深めていただくよう努めています。


◀水質異常時の初期対応講習


◀側溝での油流出防止訓練


◀オイルフェンス設置訓練

③広報活動

水質事故防止啓発用チラシを作成し、水質汚濁対策連絡協議会の関係者へ配布し、市町村の広報に掲載するとともにホームページで紹介しています。また、秋田県内向けに新聞への掲載やコミュニティＦＭでの油事故防止の放送をすることにより住民へ注意喚起をし、水質事故防止へ向けた活動を行っています。さらに、河川への不法投棄を示したゴミマップを作成し、ＨＰへ掲載することで不法投棄防止の啓発をしています。



◀水質事故防止啓発用チラシ



◀油事故注意喚起の新聞広報



◀ゴミマップ

５．雄物川を活かした環境活動

雄物川は、かつては砂礫河原が子どもの遊び場所となっていましたが、近年では、水辺の楽校や船着き場等として整備した箇所は、環境学習や各種イベントに使用されており、地域と川のふれあいの場になっています。また、雄物川では、誰もが利用できるカヌー船着き場が３１箇所あり、NPO 等によるカヌー教室やカヌー体験等が開催され、自然にふれあえる身近な親水拠点、地域に活力を与える水辺交流拠点として活用されています。


◀総合学習での生物調査


◀総合学習での学習会


◀カヌー体験

６．最後に

雄物川流域は、雄物川や玉川の源流部に温泉を備え、川沿いには川と深い関わりを持つ伝統行事や貴重な史跡が多数あり、河口では日本海に沈む夕日を一望できる水辺の広場等、心洗われる風景が点在しています。

また、雄物川の豊かな水に育まれた風土は、秋田美人のふるさとでもあり、この雄物川の良質な伏流水を得て造られる上手い酒は、「米の秋田は酒の国」とも言われるとおり銘酒のふるさとでもあります。

母なる川のゆったりとした流れに身を任せ、秋田の原風景に癒やされる旅へ出かけませんか。

令和７年東北地方一級河川の水質現況　概要パンフレット

Recent conditions of water quality of class A rivers in Tohoku

http://www.thr.mlit.go.jp/

国土交通省 東北地方整備局

河川部 河川環境課

〒980-8602
仙台市青葉区本町 3-3-1　仙台合同庁舎Ｂ棟
Tel. 022-225-2171（代表）

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism Tohoku Regional Bureau